

## ⑤ 養護教諭専門教科問題の解答について（注意）

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。（マークシート右上の記入方法を参照）消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. **名前の記入** 名前を記入すること。
5. **教科名の記入** 教科名に「養護教諭」と記入すること。
6. **受験番号の記入** 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. **解答の記入**
  - ア. 小問の解答番号は1から40までの通し番号になっており、例えば、25番を 

25
----

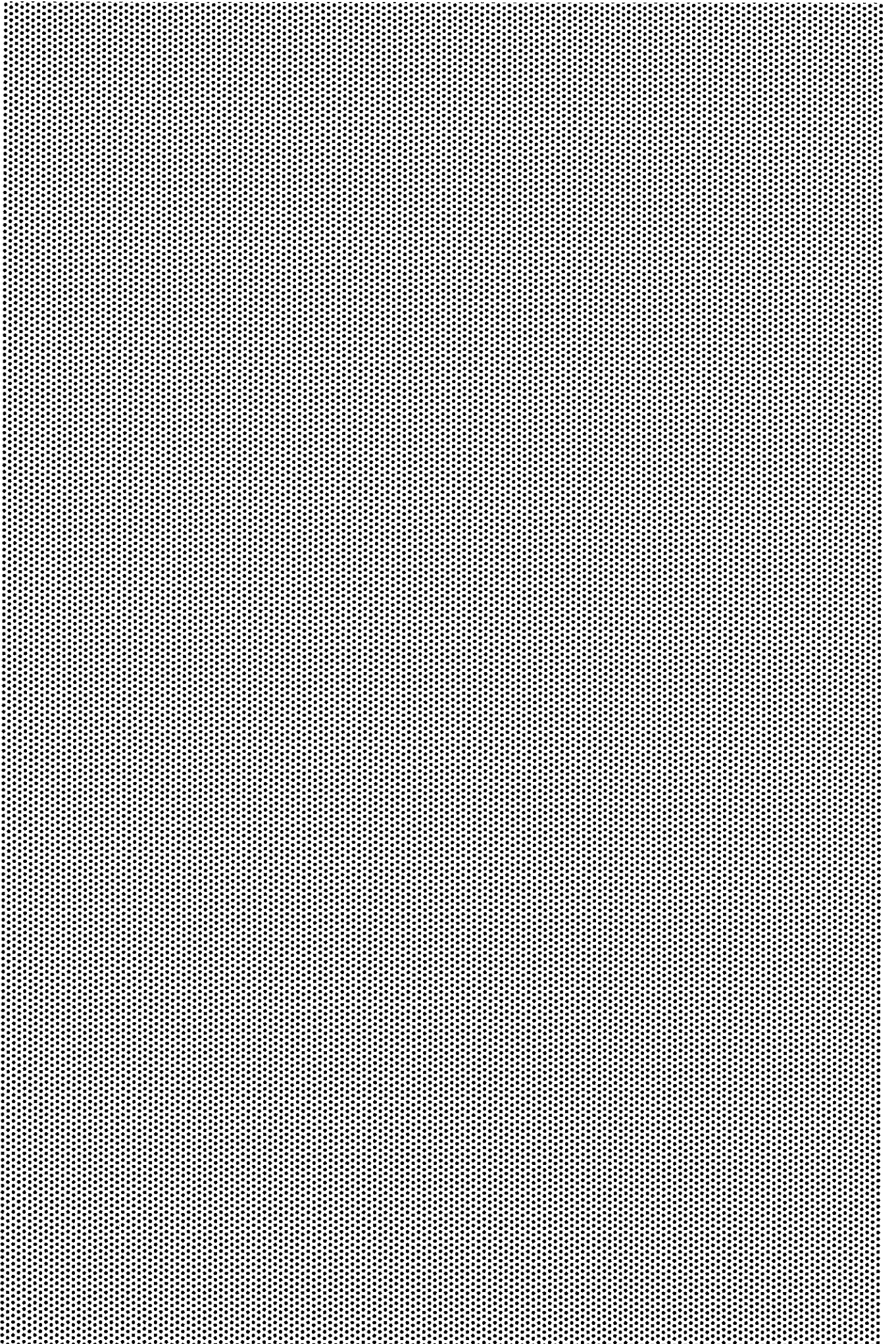
 のように表示してある。
  - イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
  - ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
  - エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

（マークシート記入例）

フリガナ	コウベ タロウ	教科名	養護教諭
名前	神戸 太郎		

数字で記入……

受験番号					小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答																									
						1 - 25		26 - 50		51																									
1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	26	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	51	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
2	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	27	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	52	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
3	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	28	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	53	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
4	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	29	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	54	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
5	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	55	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
6	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	31	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	56	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
7	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	32	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	57	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
8	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	33	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	58	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
9	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	34	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	59	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	35	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	60	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	36	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	61	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0



【1】 次の「小学校学習指導要領」（平成29年3月 文部科学省）における「第9節 体育」に関する問いに答えよ。

(1) 次の文は、「第2 各学年の目標及び内容」の第3学年及び4学年についての記述に関する抜粋である。文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

1 目標

- (1) 各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方及び①健康で安全な生活や②心の健康について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己の運動や③身近な生活における健康の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 各種の運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで努力して運動をする態度を養う。また、④健康の大切さに気付き、自己の健康の⑤保持増進に進んで取り組む態度を養う。

1

(2) 次の文は、「第2 各学年の目標及び内容」の第5学年及び6学年のけがの防止に関する抜粋である。文中の(a)にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

けがの防止について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア けがの防止に関する次の事項を理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすること。

(7) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、( a ) こと、環境を安全に整えることが必要であること。

(イ) けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。

イ けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現すること。

- ① 的確な判断の下に安全に行動する
- ② 体の清潔を保つ
- ③ 運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける
- ④ 体の発育・発達について理解する
- ⑤ 心と体の関係に気付く

2

【2】 次の文は、「高等学校学習指導要領」（平成30年3月 文部科学省）における「第6節 保健体育」のうち「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」に関する抜粋である。文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む①資質・能力の育成に向けて、生徒の②主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や③科学的な概念を使用して、運動や健康についての④自他や社会の課題を発見し、その合理的、計画的な解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを深く味わったり、⑤健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。

3

【3】 次の文は、「学校・教育委員会等向け 虐待対応の手引き」（令和元年5月 文部科学省）における虐待が及ぼす子供への影響等に関する記述である。文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・外傷のほか、①栄養障害や体重増加不良、低身長などがみられます。愛情不足による②医療放棄の結果、成長不全を呈することもあります。
- ・他人を信頼し③愛着関係を形成することが困難となるなど対人関係における問題が生じたり、自己肯定感が持てない状態となったり、④攻撃的・衝動的な行動をとったり、多動などの症状が表れたりすることがあります。
- ・ネグレクトの一種として子供を学校に通学（園）させない、いわゆる教育ネグレクトという形態もあり、そのような場合は⑤子供の教育を受ける権利を侵害するだけでなく教育上の著しい悪影響を及ぼすものと考えられます。

4

【4】 次の文は、学校保健に関する法規・法令についての記述である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる適切なものを、それぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

（1）学校保健安全法施行規則 第二十四条（一部抜粋）

学校薬剤師の職務執行の準則は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 学校保健計画及び学校安全計画の立案に参加すること。
- 二 第一条の環境衛生検査に従事すること。
- 三 学校の環境衛生の維持及び改善に関し、必要な指導及び助言を行うこと。
- 四 法第八条の健康相談に従事すること。
- 五 法第九条の保健指導に従事すること。
- 六 学校において使用する医薬品、（ア）並びに保健管理に必要な用具及び材料の管理に関し必要な指導及び助言を行い、及びこれらのものについて必要に応じ試験、検査又は鑑定を行うこと。
- 七 前各号に掲げるもののほか、必要に応じ、学校における保健管理に関する専門的事項に関する技術及び指導に従事すること。

- ① 職員の健康診断      ② 感染症及び食中毒の予防処置      ③ 救急処置  
④ オージオメータ      ⑤ 毒物、劇物

5

（2）学校保健安全法施行令 第二条

就学時の健康診断における検査の項目は、次のとおりとする。

- 一 栄養状態
- 二 脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無
- 三 （イ）
- 四 眼の疾病及び異常の有無
- 五 耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無
- 六 歯及び口腔の疾病及び異常の有無
- 七 その他の疾病及び異常の有無

- ① 寄生虫病の有無      ② トラコーマの有無      ③ 視力及び聴力  
④ 心臓の疾病及び異常の有無      ⑤ 肺活量

6

(3) 学校保健安全法 第十八条

学校の設置者は、この法律の規定による健康診断を行おうとする場合その他政令で定める場合においては、(ウ)と連絡するものとする。

- ① 教育委員会    ② 医療機関    ③ 地方公共団体    ④ 保健所    ⑤ 学校保健技師

7

【5】 次の「学校環境衛生管理マニュアル」(平成30年度改訂 文部科学省)についての問いに答えよ。

(1) 次の換気の検査方法等の解説の記述における下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

(ア) 検査回数

毎学年①2回定期に行うが、どの時期が適切かは地域の特性を考慮した上、学校で計画立案し、実施する。

(イ) 検査場所

学校の授業中等に、②各階1以上の教室等を選び、適当な場所1か所以上の③机上の高さにおいて検査を行う。なお、幼稚園等では、例えば子供たちが床で活動するのであれば、床の上で検査を行うなど、子供たちの活動状況を考慮して検査を行う。

(ウ) 検査方法

二酸化炭素濃度測定は、授業開始前から授業終了時まで経時的に行うことが望ましいが、測定回数を1回とする場合は、二酸化炭素濃度が④高くなる授業終了直前に行うこと。

二酸化炭素は、⑤定電位電解法又はこれと同等以上の方法により測定する。

8

(2) 次の飲料水等の水質の日常点検の基準の記述における下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

(ア) 給水栓水については、遊離残留塩素が①0.1mg/L以上保持されていること。ただし、水源が病原生物によって著しく汚染されるおそれのある場合には、遊離残留塩素が②0.4mg/L以上保持されていること。

(イ) 給水栓水については、③外観、④臭気、味等に異常がないこと。

(ウ) ⑥冷水器等飲料水を貯留する給水器具から供給されている水についても、給水栓水と同様に管理されていること。

9

(3) 次の学校環境衛生基準（教室等の環境）についての記述における下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

検査項目 揮発性有機化合物	基準値
ホルムアルデヒド	① <u>400</u> $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。
② <u>トルエン</u>	260 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。
キシレン	③ <u>870</u> $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。
④ <u>パラジクロロベンゼン</u>	240 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。
エチルベンゼン	3800 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。
⑤ <u>スチレン</u>	220 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

10

【6】 次の文は、尿検査についての記述である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる適切なものを、それぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

（1）尿検査は、最も基本的な臨床検査として広く行われている。尿の色、浮遊物の有無、においなどを観察し、比重、（ア）を測定する。

- ① 糸球体濾過量    ② 抗利尿ホルモン    ③ 血漿浸透圧    ④ pH    ⑤ ナトリウム

11

（2）尿中にタンパク質、（イ）、多量のウロビリノーゲン、ビリルビン、アセトン体など病的な徴候を示す物質が出ていないかを検出する。

- ① 糖    ② 副腎皮質ホルモン    ③ カリウム    ④ 硫酸塩    ⑤ クレアチニン

12

（3）尿の性状と成分は、結果的に（ウ）を恒常に保つように変化しており、飲食物、身体の活動状態、発汗、発熱などのいろいろな条件によって変化する。

- ① 膀胱の内容量    ② 浮腫    ③ 尿酸    ④ アルカローシス    ⑤ 血液の状態

13



【7】 次の表は、主な小児がんの発生場所などについてである。表中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

病名	発生場所など
白血病	血液のがん。小児がんのうち約①7割を占める。
脳腫瘍	頭蓋骨の内側にできた腫瘍。白血病に次いで多く、小児がんの約2割を占める。子どもに多い脳腫瘍は② <u>グリオーマ</u> （神経膠腫）、胚細胞腫瘍、髄芽腫など。
リンパ腫	リンパ節、脾臓、骨髄など、細菌やウイルスの排除などの③ <u>免疫機能</u> をつかさどるリンパ組織から発生するがん。リンパ組織は全身に及んでいることから、全身のあらゆる部位に発生する可能性がある。
④ <u>神経芽腫</u>	交感神経のもとになる細胞から発生する腫瘍。腎臓の上にある副腎や交感神経節（背骨のわき）などから発生する。
胚細胞腫瘍	精子や卵子になる前の⑤ <u>未成熟な細胞</u> から発生した腫瘍の総称。縦隔（胸の奥）、後腹膜、仙尾部（お尻の骨）などの身体の真ん中に発生する。

14

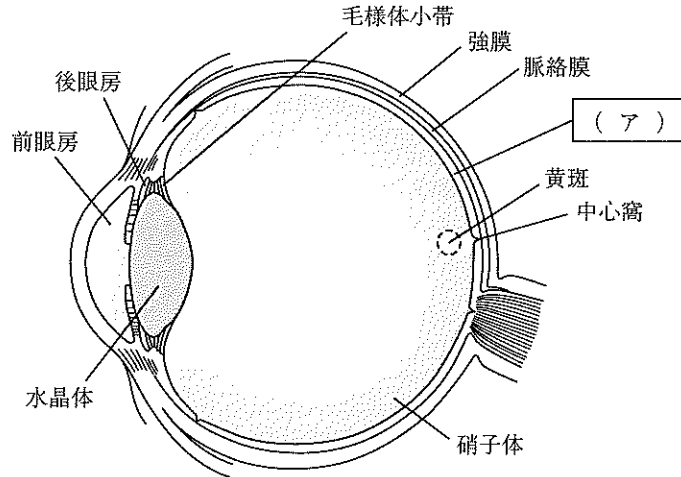
【8】 次の文は、熱中症の予防についての記述である。文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・日常生活で摂取する水分のうち、飲料として摂取すべき量（食事等に含まれる水分を除く）は1日あたり①2.5lが目安とされている。
- ・大量の発汗がある場合は水だけでなく、スポーツ飲料等の②塩分濃度0.1～0.2%程度の水分摂取が薦められる。
- ・運動時や労働時に失った水分を十分③飲水できない場合が多いので、翌日までに十分な水分摂取が必要である。
- ・運動時や作業時に大量の発汗がある場合には、体重減少量(発汗量)の④7～8割程度の水分の補給が目安である。
- ・汗の量は、運動や作業の強度と⑤環境温度および着衣量により異なる。

15

【9】 次の人体のつくりや働きについての問いに答えよ。

(1) 次の図は、眼球の構造である。図中の(ア)にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。



- ① 視神経    ② 角膜    ③ 結膜    ④ 虹彩    ⑤ 網膜

16

(2) 次の文は、膵臓についての記述である。文中の(イ)にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

膵臓には(イ)が散在し、その直径はおよそ $100\sim 300\mu\text{m}$ で、A細胞、B細胞、D細胞と呼ばれる数種類の細胞から構成されている。B細胞から分泌されるインスリンは、血中のブドウ糖をグリコーゲンに変えて肝細胞に貯蔵させるとともに、細胞の糖の取り込みを促進し、血糖値を下げる。

- ① 球状帯    ② 網状帯    ③ ランゲルハンス島    ④ 上皮小体    ⑤ 松果体

17

(3) 次の文は、白血球についての記述である。文中の(ウ)にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

白血球は形や大きさなどによって分類される。細胞形質の顆粒の有無によって、 $2/3$ を占める顆粒球、(ウ)に分類され、顆粒球はさらにその染色性により好中球、好酸球、好塩基球が区別される。

- ① ヘモグロビン    ② リンパ球    ③ 血小板    ④ フィブリノゲン    ⑤ マクロファージ

18

【10】 次の文は、学校における定期健康診断の脊柱及び胸部の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態の検査についての記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 家庭における観察の結果、学校に提出される保健調査票の整形外科のチェックがある項目を整理する。これに加え、日常の健康観察の情報を整理する。
- ② 背骨の曲がりを見る場合、肩の高さ・肩甲骨の高さや後方への出っ張り・ウェストラインの左右差の有無を確認する。また前屈テストを実施する。
- ③ かがんだり（屈曲）、反らしたり（伸展）したときに、腰に痛みが出るか否かをたずね、後ろに反らせることにより腰痛が誘発されるかどうか確認する。
- ④ オスグッド症を疑う場合、膝のお皿の下（脛骨粗面）の周囲を痛がるかどうか確認する。
- ⑤ 立つ、歩行、しゃがむなどの動作がぎこちないか、また左右それぞれに片脚立ちするとふらつかないか、骨盤が傾いたり、背骨が曲がったりしないかを観察する。大腿骨頭すべり症、脊椎分離症、發育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）等のスクリーニングとなる。

19

【11】 次の文は、学校における定期健康診断の眼科検診についての記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 眼の周囲、睫毛、眼瞼、結膜、角膜、前房及び水晶体の一部をルーベ等を使いながら視診により検査する。
- ② 眼位検査では、検査者と被検査者がほぼ同じ高さで相対し、ペンライト又は小さな目標物を使用して検査する。
- ③ 眼位検査で検出する斜視とは、両眼で見ているときに一方の眼が目標物を見ていない状態。斜位とは、片眼を遮閉したときに、遮閉された眼が目標物を向かない状態である。
- ④ 検査に際しては、保健調査票などにより児童生徒等の眼に関する既往歴や自覚症状、また視力検査結果の情報を把握した上で、適切に実施することが大切である。
- ⑤ 検査の結果、学校医が必要と認めた者について受診を勧める。眼位の異常については、その場で直ちに受診するよう勧める。

20

【12】 次の文は、学校における定期健康診断の体重測定についての記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 測定単位はkgで、小数点第1位まで記入する。
- ② 食後すぐ、又は激しい運動直後に測定することのないように計画する。
- ③ 体重が正常であるのか、異常であるのかについては、身長と対比して評価する必要がある。身長と対比して体重を評価する方法が肥満度である。
- ④ 健康診断時に肥満の児童生徒等を見た場合は、「児童生徒等の虐待」を心にとめて観察する必要がある。
- ⑤ 体重の測定には、計量が正確な体重計を用いて行う。計量の前に、水平が保たれ、移動したり振動したりしないように固定されていることを確認する。また、指針の零点を正しく調整する。

【13】 次の学校における感染症への対応についての問いに答えよ。

(1) 次の文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

各感染症の出席停止の期間は、①感染様式と疾患の特性を考慮して、人から人への感染力を有する程度に病原体が②排出されている期間を基準としている。感染症の拡大を防ぐためには、患者は、

- ・他人に容易に感染させる状態の期間は③集団の場を避けるようにすること
- ・健康が回復するまで治療や休養の時間を確保すること

が必要である。

なお、診断は、診察に当たった医師が身体症状及びその他の検査結果等を総合して、④医学的知見に基づいて行われるものであり、学校から特定の検査等の実施（例えば、インフルエンザ迅速診断検査やノロウイルス検査）を全てに一律に求める⑤必要がある。

22

(2) 次の文中の(ア)～(エ)にあてはまるものとして適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

校長は、学校において予防すべき感染症にかかっている、かかっている疑いがある、又はかかるおそれのある児童生徒等に対して、出席を停止することができる。また、学校の設置者は、感染症の予防上必要があるときは、学校の全部又は一部の(ア)を行うことができる。

第三種の感染症は、(イ)を通じ、学校において流行を広げる可能性がある感染症を規定している。出席停止期間の基準は、(ウ)により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまでである。

第三種の感染症に分類されている「(エ)」は、学校で通常見られないような重大な流行が起こった場合に、その感染拡大を防ぐために、必要があるときに限り、校長が学校医の意見を聞き、第三種の感染症として緊急的に措置をとることができるものとして定められているものである。

- |          |            |        |                |
|----------|------------|--------|----------------|
| ① (ア) 休業 | (イ) 学校教育活動 | (ウ) 治療 | (エ) 重症急性呼吸器症候群 |
| ② (ア) 消毒 | (イ) 学校教育活動 | (ウ) 治療 | (エ) その他の感染症    |
| ③ (ア) 休業 | (イ) 学校教育活動 | (ウ) 病状 | (エ) その他の感染症    |
| ④ (ア) 休業 | (イ) 血液     | (ウ) 病状 | (エ) 重症急性呼吸器症候群 |
| ⑤ (ア) 消毒 | (イ) 血液     | (ウ) 治療 | (エ) その他の感染症    |

23

【14】 次の学校において予防すべき感染症についての問いに答えよ。

(1) 次の文は、風しんについての記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 潜伏期間は、主に8～12日（7～18日）である。
- ② 感染経路は、飛沫感染、接触感染。
- ③ 発熱は麻しんほど顕著ではないが、淡紅色の発しんが全身に出現する。3～5日で消えて治ることが多い。リンパ節の腫れは頸部、耳の後ろの部分にみられ、圧痛を伴う。発熱は一般に軽度で、気付かないこともある。
- ④ 病原体は、風しんウイルスである。
- ⑤ 妊娠20週頃まで（特に、妊娠早期）の妊婦の感染により、胎児にも感染し、出生児が脳、耳、眼、心臓の異常や精神運動発達遅滞を有する先天性風しん症候群を発症することがある。

24

(2) 次の文は、腸管出血性大腸菌感染症についての記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 病原体は腸管出血性大腸菌（O157、O26、O111など様々なベロ毒素産生性大腸菌）である。熱に弱い、低温条件には強く水の中では長期間生存する。少量の菌の感染でも腸管内で増殖し、その毒素によって発病する。
- ② 潜伏期間は、10時間～6日である。
- ③ 感染経路は、接触感染、経口（糞口）感染。生肉などの飲食物から感染する。少ない菌量（100個程度）でも感染する。便中に菌が排出されている間は感染力がある。
- ④ 腸管出血性大腸菌感染症は、第二種の感染症である。
- ⑤ 症状は水様下痢便、腹痛、血便である。なお、乏尿や出血傾向、意識障害は、溶血性尿毒症症候群や急性脳症の合併を示唆する症状であり、このような場合は速やかに医療機関を受診する。

25

【15】 次の文は、骨折の救急処置についての記述である。(ア)～(エ)にあてはまる適切なものを、それぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

(1) 骨折の分類

骨折は、いろいろな観点から分類される。創があって骨折部が外界と交通するものを開放骨折（複雑骨折）といい、外界と交通しないものを（ア）（単純骨折）という。

- ① 脊椎骨折    ② 病的骨折    ③ 閉鎖骨折    ④ 疲労骨折    ⑤ 外傷性骨折

26

(2) 骨折の症状

局所症状と全身症状とがある。骨折部には腫脹、圧痛とともに、わずかでも動かすと強い痛みがあり、そのため患部の運動は障害される。骨折の特徴的的症状としては、短縮や異常な彎曲などの変形、あるいは本来動くべきでない部位や方向への可動性がある。全身的には、受傷直後に一過性の（イ）に陥ることがある。

- ① 脊髄障害    ② 一次ショック    ③ 脳性麻痺    ④ 末梢神経障害    ⑤ 骨軟化症

27

(3) 骨折の手当

- ・全身及び患部を安静にする。
- ・患部を固定する（骨折した手足の末梢を観察できるように、手袋や靴、靴下などを予め脱がせておく）。
- ・患部を固定後は、傷病者の最も楽な体位にする。（ウ）を防ぐために、できれば患部を高くする。
- ・全身を毛布などで包み、保護する。

- ① 腫れ    ② 筋力低下    ③ 筋の萎縮    ④ 知覚の障害    ⑤ 変形

28

(4) 固定の効果

骨折の場合、患部や患部の上下の関節を固定して患部の動揺を防ぐことにより、次のような効果がある。

- ・患部の痛みを和らげる。
- ・（エ）を防ぐ。
- ・傷病者が体位を変えたり移動する場合に、患部の動揺で新たにきずがつくことを防ぐ。

- ① 骨新生    ② 代謝異常    ③ 循環障害    ④ 拘縮    ⑤ 出血

29

【16】 次の健康相談に関する問いに答えよ。

(1) 学校における健康相談実施上の留意点について、文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ・健康相談の実施について①周知を図るとともに、児童生徒、保護者等が相談しやすい環境を整える。
- ・健康相談の場所は、相談者の②プライバシーが守られるように十分配慮する。
- ・健康観察をはじめ③情報の収集に当たり、養護教諭や学校医等と連携して的確な問題把握に努めることが大切である。
- ・継続支援が必要な者については、④校内組織及び必要に応じて関係機関と連携して実施する。
- ・⑤児童相談所等の医療的見地から行う健康相談・保健指導の場合は、事前の打ち合わせを十分に行い、相談の結果について養護教諭、学級担任等と共通理解を図り、連携して支援を進めていくことが必要である。

30

(2) 学校における子供の心のケアで、子供の話の聞き方について、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 子供が自分のペースで話せるように傾聴を心がけ、結論を急ぎすぎないようにする。
- ② 子供の話の内容が分かりにくいときは、事実関係を確認しながら進める。
- ③ 特に話の内容が深刻な場合には、その場で解決を示せなくても他の教職員や専門家と一緒に考えたいということを伝える。
- ④ 健康相談について、個別の健康相談で状況を確認するようにし、積極的に子供を励ますようなメッセージを伝えることは避ける。
- ⑤ 相談の終わりには、話の内容をまとめ、次につなぐ対応を心がける。

31



【17】 次の文は、保健主事の職務に関する法規及び記述である。文中の下線部のうち、適切でないものをそれぞれ①～⑤から選び、番号で答えよ。

(1) 学校教育法施行規則 第45条

小学校においては、保健主事を置くものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、第4項に規定する保健主事の担当する校務を整理する①主幹教諭を置くときその他②特別の事情のあるときは、保健主事を置かないことができる。
- 3 保健主事は、③学校医、教諭又は④養護教諭をもって、これに充てる。
- 4 保健主事は、⑤校長の監督を受け、小学校における保健に関する事項の管理に当たる。

32

(2) 「保健主事のための実務ハンドブック ― 令和2年度改訂 ―」(令和3年3月 公益財団法人日本学校保健会)

保健主事に求められる①心のケアには、学校保健活動全体を視野に入れ、教職員、②スクールカウンセラーなどの専門スタッフ、③地域の関係機関等に効果的に働きかけることがあります。こうした働きかけは、学校保健活動の計画づくり・④運営と、これらに必要な⑤連絡・調整としておこなわれます。

33

【18】 次の文は、中学校における性に関する指導の留意点についての記述である。文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

学校における性に関する指導は、①教育課程において実施されることから、学習指導要領に基づいて行うことが重要である。その指導は、児童生徒が性に関して正しく理解し、②適切に行動を取れるようにすることを目的に実施されており、体育科、保健体育科、③特別活動をはじめとして、学校教育活動全体を通じて指導することが大切である。

平成29年の学習指導要領改訂では、総則の教育課程編成の一般方針において、学校における④体育・健康に関する指導に、これまでどおり「生徒の⑤個人差を考慮すること」を示している。

34

【19】 次の文は、「教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引」（平成23年8月 文部科学省）に示された学校保健安全法第9条に関する記述である。文中の（ア）にあてはまる適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

近年、メンタルヘルスに関する課題やアレルギー疾患等の現代的な健康課題が生ずるなど児童生徒等の心身の健康問題が多様化、深刻化している中、これらの問題に学校が適切に対応することが求められていることから、第9条においては、健康相談や担任教諭等の行う日常的な健康観察による児童生徒等の健康状態の把握、健康上の問題があると認められる児童生徒等に対する指導や（ア）を保健指導として位置付け、養護教諭を中心として、関係教職員の協力の下で実施されるべきことを明確に規定したものであること。

- ① 組織体制づくり      ② 教育相談      ③ 保護者に対する助言  
④ 教室環境の整備      ⑤ 専門家の講話

【20】 次の気管支喘息についての問いに答えよ。

(1) 気管支ぜん息の原因について、文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

ダニ、ホコリ、動物のフケや毛などのアレルゲンに対する①アレルギ－反応が気道で慢性的に起きることが原因である。慢性的な炎症により気道が過敏になっているため、さらなるアレルゲンへの曝露のほか、風邪やインフルエンザなどの②呼吸器感染症や③運動、④受動喫煙、時に⑤紫外線などでも発作が起きやすくなっている。

36

(2) 気管支ぜん息の児童が、宿泊を伴う校外活動に参加するに当たり、配慮する事項について、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 宿泊を伴う校外活動は、児童生徒等が興奮したり、疲れたり、また宿泊地の気温、気圧の変化などにより、日常に比べ急性増悪（発作）が起きやすい状況にあるため、参加を避けるよう配慮する。
- ② 室内環境が悪い（畳部屋、じゅうたん部屋、喫煙可の部屋等）場合、急性増悪（発作）が誘発されやすいため、宿泊先の選定にあたっては十分に下見と打ち合わせを行う。
- ③ 室内で枕投げや暴れたりすることなどで、ホコリを吸いこみ急性増悪（発作）を起こす可能性があるため、事前に患児を含めて全員に指導する。
- ④ 宿泊先近辺の適切な医療機関を調べておく。
- ⑤ 保護者を通じ、事前に主治医に参加可能な状態かどうかと注意点を確認する。

37

**【21】** 次の歯の外傷への対応について、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 歯の破折は永久歯列の場合、歯根の発育度が高く、隣接する歯が萌えているような小学生高学年や中学生で発生しやすくなる。
- ② 歯根破折の有無はガーゼなどを持った手指で歯冠部を摘んで、歯の動揺状態で判断する。
- ③ 歯の動揺（脱臼）がみられず歯冠破折片が少なく、冷水にしみる程度の症状の時は、歯科医療機関に受診する必要はない。
- ④ 歯の脱臼は歯の破折に比べ出血することが多くみられる。
- ⑤ 歯の動揺がみられるときは歯根部の破折もしくは歯の脱臼を起こしていることが予測される。このような症状も緊急な処置が必要である。

【22】 次の摂食障害に関する文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

摂食障害のなかで拒食症（神経性食欲不振症）は①15～17歳ごろに初発することの多い重篤な精神障害であり、②低体重の否認、③痩せすぎた身体イメージを理想化するなど④認知の歪みなどを伴うのが特徴である。女子に圧倒的に多く、この年代における女性ホルモンの⑤分泌減少の影響も指摘されている。

39

【23】 次の体重の測定の事後措置に関する文中の下線部のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

これまでの測定値を①体重成長曲線として検討し②評価することによって、正常な体重の成長を確認すること、あるいは肥満ややせを早期に発見することができる。特に過去の体重より減少した場合は、何か大きな③健康上の問題があると考えなければならない。体重の測定値を単に④数値としてみただけでは、体重の増えが正常であるのか、異常であるのか分からないので、必ず一人一人の児童生徒等について①体重成長曲線と⑤身長成長曲線を描く必要がある。

40

